

第 8 回日中韓大学院生フォーラム報告書

Report of the 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum



◆ 開催日程 ; 2015 年 9 月 16 日 (水) -18 日 (金)
DATE; Wednesday, Sept. 16 – Friday, Sept. 18

◆ 開催場所 ; 筑波大学
VENUE; University of Tsukuba, Japan



筑波大学生命環境系
Faculty of Life and
Environmental Sciences
University of Tsukuba



筑波大学
University of Tsukuba

第 8 回日中韓大学院生フォーラム報告書

Report of the 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum

◆ 開催日程 ; 2015 年 9 月 16 日 (水)-18 日 (金)

DATE; Wednesday, Sept. 16 – Friday, Sept. 18

◆ 開催場所 ; 筑波大学

VENUE; University of Tsukuba, Japan

目次

CONTENTS

1. はじめに / Introduction	・・・ 1
2. フォーラムの略歴 / History of the forum	・・・ 2
3. フォーラム日程表 / Schedule of the 8 th JCK Forum	・・・ 4
4. 日中韓大学院生フォーラム報告 / Report of JCK Graduate Student Forum	
1) 学生リーダーからの報告 / Report by Student Leader	・・・ 6
2) 参加学生からの報告 / Report by Participated Students	・・・ 9
3) サポートチームからの報告 / Report by Support Team	・・・ 24
4) WEB 関連の報告 / Report of WEB Site Management	・・・ 26
5. フォーラム参加校と参加者数 / List of Participated Universities and the Number of Participants	・・・ 28
6. 受賞者一覧 / List of Prize Winners	・・・ 30
7. 筑波大学学生参加者名簿 / List of Participants from University of Tsukuba	・・・ 32
8. 実行委員名簿 / List of Organizing Committee Members	・・・ 34
9. 謝辞 / Acknowledgement	・・・ 35

1. はじめに / Introduction



日中韓大学院生フォーラムは、日本（中核大学：筑波大学）、中国（中核大学：北京重点大学コンソーシアム）、韓国（中核大学：忠南大学校）の3か国間における生命環境科学分野の大学院生の英語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに、学生諸君がフォーラムの企画・運営に主体的に関わる経験を積むことで、将来的に国際イベントを企画・運営する能力を涵養することを目的とする。2008年から開催国の持ち回りで毎年開催し（韓国は2012年フォーラムから参加）、2015年の第8回フォーラムは、筑波大学で開催された。さらに、日中韓3国に加え、主催国の中核大学の海外協定校からの参加も認められており、多様な国の大学院生が参加している。第8回フォーラムには、タイ及びマレーシアからの参加者もあった。初期の大学院生フォーラムでは、口頭発表とポスター発表の2つの発表形式を採用してきたが、2014年の北京フォーラムからは全て英語による口頭発表とした。参加学生諸君は、事前に発表準備をしっかりと行い、素晴らしい発表が行われている。本フォーラムへの参加校及び参加者数は増加傾向にあり、規模は発足当初に比べ大きく拡大し、第8回フォーラムでは、学生、教職員併せて174名が参加した。

2015年の第8回フォーラムは、筑波大学としては、通算4回目の開催であり、学生リーダーグループ及び教職員を含めた実行委員がフォーラム成功に向けて尽力した。本フォーラムからの新しい試みとして、参加・発表登録とプログラム編成を容易にするため、フォーラム専用のHPを立ち上げ、運用した。次回大会以降も同様のシステムが定着することを期待したい。学生リーダー諸君は、国際フォーラムの企画・運営が初体験という者が殆どであったが、試行錯誤を繰り返しながら、フォーラムを成功裡に開催・完了することができた。主体的に国際会議運営に関わったことのない学生リーダー諸君にとって貴重な経験になったと見える。

インターネットなど通信媒体の急速な進歩により、世界との距離感が急速に近づいている。このような世界で自国以外の人と日常的に交流できる能力を涵養することは、大学の実施するグローバル教育の中で重要な位置を占めている。本フォーラムは、それを具体的実行する貴重な機会である。今後は、日中韓の3国による交流に止まらず、広い範囲に参加国を拡大し、それらの国々が切磋琢磨し、“ゴードンカンファレンス”の“アジア学生版”になればと期待する。

最後に、国際フォーラムの企画・運営経験の少ない学生諸君に大きな支援をしていただくと共に、叱咤激励していただき、無事に完了まで導いていただいた、教職員の皆様・筑波大学に感謝したい。

第8回日中韓大学院生フォーラム 代表
筑波大学 生命環境科学研究科長 江面 浩

2. フォーラムの略歴

- 2007年3月 北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、北京師範大学、中国科学院大学院(GUCAS)、Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research (CAS)の6大学1研究所と筑波大学の間で、学生交流を含む大学間協定が交わされた。この協定が契機となって、その後の日中の大学間で交流が開始した。
- 6月 GUCASの副学長の筑波大学訪問時に、大学院生のフォーラムに関する構想が提案される。
- 8月 先の構想をもとに本格的なフォーラムの企画が開始される。当初のねらいは日中間の相互理解と学問的な情報共有にあった。規模が拡大した現在でも Academic な交流としての側面と、学生同士の交流の場としての側面として、この精神は受け継がれている。ここで二国間の持ち回り開催などの基本的枠組みが決定された。
- 2008年3月 プレフォーラムが北京市において開催される。
- 10月 第1回フォーラムが筑波大学にて開催される。学生主体のフォーラムという基本的な性格は、第1回から綿々と続いている伝統である。
- 2009年 第2回フォーラム開催（於 中国地質大学）。
- 2010年 第3回フォーラム開催（於 筑波大学）。
- 2011年 第4回フォーラム開催（於 中国地質大学）。
- 2012年 第5回フォーラム開催（於 筑波大学）。
大変喜ばしいことに、このフォーラムから韓国忠南大学が参加することになった。これに伴いフォーラム名も日中韓大学院生フォーラムとなった。
- 2013年 第6回フォーラム開催（於 忠南大学）。
- 2014年 第7回フォーラム開催（於 中国地質大学）。
- 2015年 第8回フォーラム開催（於 筑波大学）。

2. History of the forum

- March 2007 University of Tsukuba (UT) and six Chinese universities and one institute (i.e., Peking University, Tsinghua University, China University of Geosciences, China Agricultural University, Beijing Normal University, Graduate University of Chinese Academy of Sciences (GUCAS), Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research (CAS)) set an agreement including student exchange.
- June 2007 Vice-president of GUCAS visited UT. At that time outline of the forum was fixed.
- August 2007 President of CUGB visited UT to discuss actual plan of the forum. Initial aim was mutual understanding and exchange academic information among universities. It was decided here to have the first forum in UT, and second one in CUGB.
- March 2008 Pre-forum was held in Beijing.
- October 2008 The first forum was held in UT.
- 2009 2nd forum at CUGB
- 2010 3rd forum at UT
- 2011 4th forum at CUGB
- 2012 5th forum at UT
Since this year's forum, Chungnam National University has joined and forum was re-named as "*China-Japan-Korea*" Graduate Student Forum. It was our great pleasure to have new friend in this forum.
- 2013 6th forum at Chungnam National University (Korea)
- 2014 7th forum at CUGB
- 2015 8th forum at University of Tsukuba

3. フォーラム日程表 / Schedule of the 8th JCK Forum

日程 Date	時間 Time	スケジュール Schedule	場所 Venue
9月16日(水)	15:00	受付開始	総合研究棟 A 1 階
	18:00	Welcome Reception	二学食堂
	20:20	滞在ホテルへ	
9月17日(木)	9:00	開会式	2B411
	9:20	Keynote Speech (2名) 白岩善博教授 浅沼順教授	2B411
	10:40	写真撮影	2B411
	11:10	口頭発表	2C 棟、2D 棟
	12:30	昼食	二学食堂
	14:00	口頭発表	2C 棟、2D 棟
	17:30	夕食	二学食堂
	19:20	滞在ホテルへ	
9月18日(金)	9:00	口頭発表	2C 棟、2D 棟
	12:00	昼食	二学食堂
	14:00	エクスカージョン (教員陣は運営会議)	
	18:00	Farewell Party	二学食堂
	20:20	滞在ホテルへ	

◆Keynote Speech 講演者紹介

1) 白岩 善博 教授

所属；筑波大学・生命環境系

研究分野；植物分子・生理科学、機能生物科学

ホームページ；<http://plmet.biol.tsukuba.ac.jp/index-en.html>



講演題目

「**Approach toward Biomass and Biofuel Production by Marine Microalgae in Tsukuba**」



2) 浅沼 順 教授

所属；筑波大学・生命環境系

研究分野；水工学、環境動態解析、気象・海洋物理・陸水学

ホームページ；<http://www.ied.tsukuba.ac.jp/~asanuma/>



講演題目

「**Hydrological Cycle, Water Resources and Virtual Water Trade**」



4. 日中韓大学院生フォーラム報告

/ Report of JCK Graduate Student Forum

1) 学生リーダーからの報告 / Report by Student Leader

2015年9月16-18日に筑波大学で第8回日中韓大学院生フォーラムが開催された。筑波大学（日本）で日中韓大学院生フォーラムが開催されたのは2012年の第5回フォーラム以来3年ぶり4度目である。今回は日本、中国、韓国さらにはタイ、マレーシアから大学院生（一部大学生）が集まり、129題目の口頭発表が行われた。本フォーラムの企画、運営には学生だけでなく、生命環境科学研究科教員及び事務員の方々などが携わっていたが、ここでは学生リーダーが主として行ったフォーラム開催に至るまでの準備、及びフォーラム期間中の仕事内容とその反省を述べる。

学生リーダー全員が最初に顔合わせしたのは5月のゴールデンウィーク明けであった。本フォーラムの学生リーダーは、大学院生から羽尾、平本、藤原の3名、学群生（4年生）から浅野、市川、岡島の3名の計6名で組織された。羽尾、平本は昨年第7回フォーラム（中国地質大学開催）の際にリーダーを経験しているため、この2人を中心にフォーラムの運営は進められていたように感じる。しかし、ホスト校としての運営を経験した者はおらず、さらに、第5回フォーラム（筑波大学開催）の資料もほとんど残っていなかったため、すべてが手探りの状態でフォーラム準備を開始した。我々学生リーダーが行ったことは、国内外へのフォーラムの告知と参加者の募集、参加者への必要事項の連絡、アブストラクト集の作成、練習会の企画と運営、ビザ取得用の招待状の送付、宿泊先の確保、バスの手配、基調講演の依頼、横断幕の作成、フォーラム当日の運営等、挙げればきりが無いほどの様々な業務を行った。ここですべてを紹介することは不可能なので、主だったものをいくつか述べたいと思う。



まず初めに、フォーラムの告知と参加者の募集、及び参加者への連絡について報告する。今回は中国地質大学、韓国：忠南大学校にそれぞれ事務局を設置して頂き、こちらからは募集人数の上限のみを設定し、それぞれの国での告知及び募集は自由に行ってもらった。また、筑波大学内への告知、募集は、昨年同様ポスター、メーリングリスト等を利用して行った。国内他大学へは、これまでに参加実績のある大学の教員もしくは大学事務へフォーラム開催の告知をメールで行った他、白岩先生の方からもフォーラム開催の連絡をして頂いた。そして、本フォーラムではフォーラムへの参加登録及び事務局からの連絡を簡便化するために、櫻井さん（大学事務）の協力のもとフォーラムの **WEB** ページを作成した。**WEB** 上で参加登録及び必要事項の連絡を行ったことや、各国に事務局を設けたことで、参加者個人からのメールなどの煩瑣なやり取りが減少し、仕事の効率が格段に向上した。これは、次回、筑波大学開催時にも参考にして頂きたい。一方、各国の参加校及び参加者とその国の事務局に任せていたため、事務局の選好が強く反映されてしまう点が問題となった。この点は次回フォーラムに向けて改善できればと思う。

次に、練習会について報告する。例年、筑波大生へは練習会への参加を義務づけているが、今年は筑波大開催ということもあり例年よりも多くの学生（37名）の練習会を実施する必要があった。そのため、練習会参加回数の義務は1回とし、希望者には2回目の練習会を実施した。講師陣はフォーラム運営実行委員の方々（Taylor先生、楊先生、康先生、Ahamed先生、Parkner先生、Irving先生、Wood先生、木下先生）にお願いし、英語での発表の仕方やスライドの作り方、英語の直し等の指導をして頂いた。その結果、筑波大生は練習会の時に比べて、本番で質の高い発表ができていたと感じられた。練習会を企画し実施する大きな意味を実感することができた。

次に、ハンドブック及びアブストラクト集の作成に関して報告する。ハンドブックにはフォーラム当日のスケジュールや発表のタイムテーブル、発表会場の地図、参加者名簿等を掲載した。アブストラクト集には各アブストラクトをセッションごとに並べて掲載した。表紙は岡島さん（学生リーダー）にデザインして頂いた。目的とするアブストラクトを探しやすいように作成したので、その点に関しては満足のいくものができたと思う。

最後に、フォーラム当日の運営について報告する。当日は多種多様な運営及び対応が求められるため、筑波大学のフォーラム参加者にも当日スタッフとして運営に協力して頂いた。受付、会場、食事・パーティー、エクスカージョン、バスの5つの係を組織し、各係に学生リーダーを1人、さらに筑波大生を割り振ることで個人の役割を明確にさせた。しかし、係を組織し、割り振るのが遅かったせいか（8月28日に第1回ミーティング）、係によっては当日慌てている様子も見受けられた。その原因は、リーダー間での各係の業務の明確化や、リーダーから各係のメンバーへの連絡不足であると考えられる。係の組織や配

属は1か月ほど余裕をもって行い、もっとミーティングを密に行うべきであったと思う。とは言え、すべての係で大きな問題なく、業務をこなすことができていた。この点に関しては筑波大スタッフの臨機応変な対応に助けられたと強く感じた。

フォーラム全体を通してみると、多少のトラブルはあったものの、全体的にスムーズに運営されていたと思う。約5か月間日中韓フォーラムの準備をしてきて、大変な時期もあったが、1つのフォーラムを企画、運営しそして、成功させることができて本当に嬉しく思うと同時に大きな達成感を感じることができた。



学生リーダー 代表 羽尾周平
学生リーダー：平本潤、藤原直倫、浅野裕樹、市川紗矢香、岡島智美

2) 参加学生からの報告 / Report by Participated Students

環境バイオマス共生学専攻 博士後期1年

浅田 遼

様々な分野の発表を見ることができて、大変勉強になりました。

私の分野は分子生物学なのですが、地球科学など他分野の研究方法はとても興味深いものがありました。自分の分野にとらわれず、積極的に他分野の発表を聞きに行き行って良かったと思っています。

私はエクスカージョン係だったのですが、参加者が少なかったように感じました。最終日だったこともあり、都心まで観光に行く学生などが多くみられました。エクスカージョン係としては少し寂しい気持ちにもなりましたが、海外から来た学生の立場に立てば尤もなことだと思いました。

以上となります。素晴らしい機会に参加させていただき、ありがとうございました。

環境バイオマス共生学専攻 博士前期2年

船津 詩織

まず、この度、このような発表の機会を設けていただきましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。自身の進路選択や実験の忙しい時期と重なり、フォーラムの仕事に満足に関われませんでした。運営グループの方々の支えや発表練習にて指導をいただいた先生方のおかげで無事発表を行うことができました。誠に感謝申し上げます。この日中韓フォーラムへの参加は初めてであり、私にとって貴重な経験となりました。特に、中国、韓国の学生を始め、今回タイやマレーシアからの留学生も参加していたことから多様なバックグラウンドをもつ学生と交流でき、大学の内外を問わず新たな友人を得ることができました。また、自身の研究内容を他分野の学生に理解してもらうために発表の準備を行ったことは、自身の研究を再度振り返る良い機会となりました。普段、研究を突き詰めてゆくばかりで視野が狭くなりがちですが、今回、分野外の学生にもわかりやすく伝えられるよう試行錯誤し、多くの学生、先生方と議論をした経験は、多方面から研究を見つめなおすことにつながりました。発表後に質問をしてくれた学生と意見を交換し合えたことは何よりも嬉しく感じました。また、発表の場数を踏んで成長し、研究者としても、またこれから社会へ出て行くための良い訓練になったと思います。学术交流の場として若手研究者の研究成果が発表されると共に、これから先、このフォーラムに参加する学生が国際的におかれた立場を認識し、他国の学生と積極的に交流を続けることにより、フォーラム自体が末永く続いてゆくことを願います。

生物圏資源科学専攻 博士後期2年

羽尾 周平

昨年に引き続き学生リーダーとして第8回日中韓フォーラムを迎え、自国開催の大変さを痛感しました。フォーラム開催までの2-3か月は常にフォーラムのことで頭がいっぱいでした。フォーラムは大きな問題なく運営することができましたが、エクスカージョンへの参加人数が少なかったこととフェアウェルパーティー時の余興が呼べなかったことが心残りではあります。一方、自分の発表は決して満足のものではありませんでしたが、フォーラム運営と並行して準備していたことを考えると、悪くない出来であったと思います。英語での発表は学生である間に多く経験できることではないので、英語で発表をできる機会が毎年与えられているのは、とても喜ばしいことでもあります。来年以降も本フォーラムが継続して開催され、多くの学生に発表のチャンスが与えられることを願っています。

生命産業科学専攻 博士後期2年

Xiaohong Hu

JCK forum was an unforgettable experience. I was grateful to be a member in JCK forum and be responsible for picking up students and professors from Korea and China. It is a serious work. It needs thoughtful schedule and arrangement for all kinds of things, such as time and place. Our leaders did their best to arrange them. And we members also followed the leaders and did our best. Although sometimes it was not perfect, I believe all of us make important contribution to this forum. And also I think we would do better next time.



環境バイオマス共生学専攻 博士前期1年

稲葉 遊

日中韓フォーラムでは、自分の研究について、先輩の研究結果も含め発表した。英語のスライド、英語の口頭発表であったが、研究室のゼミを英語で行っているため、特別苦労することなく発表することができた。

運営の方では、食事・パーティー係としてかかわった。パーティーの運営、食事への誘導を行ったが、第2食堂の協力もあり、特に問題なく終わった。ただ、パーティーでは多くの食品があまっていたので、次回からは量を減らすことができると思った。また、今回、余興として、筑波大学からは阿波踊りを披露したが、大学内の日本文化に関するサークルへの依頼が不十分であったと思う。これからは、知り合いがそのサークルにいる、いないにかかわらず、積極的に演奏・パフォーマンスの依頼を早い段階ですべきだと思う。

エクスカージョンに参加する外国人は非常に少なく、多くの人々がショッピングモールへ行ってしまった。おそらく多くの学生が筑波の研究機関を見学することに興味をもっていなかったため、次からはショッピングモール・娯楽を中心としたエクスカージョンにする方が外国人の方も助かると思う。

地球進化科学専攻 博士後期2年

高津 翔平

2015年9月16日~18日に開催された第8回日中韓フォーラムでは、Geosciences セッション2の司会を務めるとともに、同セッション3において口頭発表を行った。国際会議での司会を務めたのは初めてではあったが、発表者の紹介、進行や議論の運び等、十分役割は果たせたと感じている。自身の発表ではやや手元を見ながらではあったが、時間通りにプレゼンを終え、議論も行えた。中国や韓国をはじめ海外参加者の発表に関しては、特に中国の学生は英語が流暢であり、どれも大変興味を持てる発表ばかりであった。また巡検の送迎担当でもあったが、当日にほぼ全員がキャンセルを申し出たため中止となった。個人的にはキャンセルすることにやや疑問を感じたが、十分な案内や準備ができていなかったことも事実である。従って、次回開催時の課題の一つとして、参加者が気持ちよく巡検に参加できるよう次回の担当者には準備を進めて頂きたい。Welcome party や Farewell party では参加者の盛り上がりも大きく、十分に楽しんで頂けたのではないだろうか。個人的にも充実した学会であり、次回も是非参加したい。

環境バイオマス共生学専攻 博士前期2年

町田 峻太郎

今回のフォーラムでは普段あまり携わらない分野の研究を聞くことができ、大変参考になった。自身の研究分野にだけにとらわれなくて視野を広くして研究しようと思った。英語での口頭発表は初めてだったが、英語でも発表することができるという自信がついたとともに、今後への課題が得られた。

生物資源科学専攻 博士前期1年

丸山 優樹

本フォーラムが自身にとっての初めての英語でのプレゼンの機会でした。そのため、これまでプレゼンの作り方やスピーチの内容など様々な部分で知らない点が数多く存在していました。しかし、本フォーラムでは事前に発表練習もあり、スライドの配色・英語表記など非常に細かい部分から指導していただき勉強になりました。

フォーラム内では、中国や韓国から来た大勢の学生とコミュニケーションをとることができ、様々な研究内容を知ることができ、自身の専門分野を超えた知識を身に付けることができました。発表においても、分野の異なる方々が多く視聴していたため、質疑応答では、今まで考えていなかったような視点からのアドバイスや質問があり非常に勉強になりました。

その他にもエクスカージョンや懇親会など、今後国際学会などに出席した場合に経験するであろう内容を筑波大学内で経験することができ、大変貴重な機会となりました。この場をかりて御礼申し上げます。ありがとうございました。



生物資源科学専攻 博士前期2年

宮崎 航

本フォーラムにあたって、私は Agricultural Science のセッションにおける口頭発表 1 課題と、中韓からの参加者の受け入れをするフォーラム運営側の仕事をした。運営補助の具体的な内容は、来日した学生および教員の会場誘導や宿泊ホテルへの送迎である。

本フォーラムの場では、中韓の学生との交流の機会が多くあった。第一に口頭発表の場では、同じセッション内で海外の学生が行っている研究を知ることが出来た。持っていたイメージの通り、中韓の農業に関する研究分野でも施設栽培や植物工場に関心が持たれているようで、その課題に関する発表も多かった。この分野は私の大学院での研究分野になるので、特に興味を持って話を聞き、討論することができた。また、そのセッション後に私の所属する研究室を訪ねたいという韓国の学生や教員に研究室紹介もすることができた。日中韓では施設栽培の分野で類似の研究に手を付けているようなので、今後も研究の場では中韓と関わることは多いのかもしれない。また、運営の仕事の中では大学院生として海外の同年代の学生と文化交流のようなこともできた。パーティーやホテルへの送迎の間に話を互いにする時間は、むしろセッションの時間よりも長かったかもしれない。

今回のフォーラムでは、以上のセッションの中で参加を通して、専門分野の話や文化交流ができた。またセッション外の時間についてもまとめると、今年は日本での開催であったため、運営側として活動する中で、特に多く中韓の学生と話をする機会が持てた。

生物圏資源科学専攻 博士後期1年

Rached Moalla

I think the forum went fine overall. I was in the party/meal team. Our work went smoothly and everyone was served on time. I just noticed that few people did not really eat their obento meals. I guess they did not like it. May be giving choice about the content of meals can help students enjoy their eating and avoid give back/throwing of food.

I also went on a study tour to Riken. I was requested to help with translation of Japanese to English. We met two persons in riken. The first lady we met had rather easy to understand Japanese for me so I could translate her talk. Second man was talking about cell lines and his Japanese was pretty hard to understand. So, other Japanese students took the word and helped with translation. But, it was still hard for them because of the use of many technical words.

We did not have a lot of participants in the Riken tour. While it was supposed to be like 30 persons. I think there was a lack of advertisement for the tour to get the interest of people to join and participate to it.

地球科学専攻 博士前期1年

長塚 元規

発表について

・英語で発表できる貴重な機会を得ることが出来、準備段階から、本番の発表でとても勉強になりました。また、発表だけでなく、実際の専門学会でもすることになるであろう座長という役割もすることが出来とても良い経験になりました。

・発表のスライドや原稿の作成時に基本的な英語はもちろん、発表という特殊な英語の表現方法や文法等について勉強する良い機会となりました。

運営について

＜エクスカージョン係＞

・エクスカージョンの参加者がほとんど集まらなかった。結果、エクスカージョンの予定をいくつかキャンセルすることになり、先方に迷惑を掛けてしまいました。

・海外から来た学生の中で、エクスカージョンの裏で、ホテルで過ごすか、各自ショッピングや観光に出かけていた人がいたそうです。

上記のような状況になってしまったため、今後エクスカージョンに人をより多く集める必要があるのであれば、フォーラムが始まる前に参加者に告知をし、エクスカージョンの行先をきいておくとも良いかと思いました。

・エクスカージョン先で英語による説明が必要だったが、自分の英語力が足りず、勉強の必要性を強く感じました。

その他

・日中韓の学生と国や研究の分野を超えて交流することができました。また、英語で会話をするという実践的な機会を得ることが出来、良い経験になりました。

最後に

今回、このようなとても貴重な経験をさせていただいたこと、フォーラム運営の中心を担って下さった学生の方々、筑波大学職員の方々、そして諸先生方、関係者各位に感謝申し上げます。今後もこのフォーラムを通して、私含め多くの学生が貴重な経験や交流をすることができることを期待しています。



生物資源科学専攻 博士前期1年

小田 真希

今回の日中韓フォーラムは私にとって初めての学会でした。英語での口頭発表ということで準備はとても大変でした。特にこのフォーラムの参加者は異なる分野の研究をなさっている方が多いとのことだったので、自分の研究背景や内容を上手に伝えるためには工夫が必要でした。しかし、練習会で多くの先生や学生みなさんにスライドの構成やストーリーへのアドバイス、誤字などのチェックを行っていただいたので、十分なプレゼンテーションを作り上げることができました。本番は緊張により練習通りに発表ができませんでしたが、自分にとっていい経験になりました。また、中国や韓国の学生の発表も興味深いものが多く、刺激をもらいました。他国でおこっている問題や求められていること、社会的背景など、日本にいただけでは注目し得ないことを知ることができました。このフォーラムに参加して、より熱を入れて研究しなければならないと思ったのと、自分の研究分野や国以外にも注目してみることで、つまり、より広い視野を持つことが必要だと感じました。

生物資源科学専攻 博士前期2年

佐藤 文香

日中韓大学院生フォーラムで、食事・パーティー係として運営に関わりました。大学院生が主体のフォーラムであるからこそ、学生同士の交流のきっかけとなるようなゲームを企画しました。日本語・中国語・韓国語、それぞれで同じ意味をあらわす言葉を書いたカードを作り、母国語以外で書かれているカードをウエルカムパーティーで配りました。フォーラム中に、同じ意味のカードを持っている人を探し、見つけた時に写真を撮ってもらいました。このゲームが少しでも学生同士で話すきっかけになればと思っていましたが、想像以上に盛り上がり、参加学生に楽しんでもらうことが出来ました。今回のフォーラムの参加が、友人や研究者として関係を作るきっかけになればと思います。今年参加した学生がまた来年のフォーラムに参加したいと思える機会となればよかったです。



生命産業科学専攻 博士後期1年

Mishma Silvia Stanislaus

The 8th JCK Forum was a great experience. I attended the 7th JCK Forum held in China and this year I attended the Forum again at our very own, University of Tsukuba. This time we not only participated as speakers but also as volunteers, in order to help the students coming from other countries. I was at the Registration and helping the students to register for the Conference and this allowed me to interact with a lot of students and it was indeed a great encounter. Also, I was lucky to win the First prize for my presentation, twice in a row. I consider this achievement a great success and will continue working hard in all my future endeavours. I would like to thank all the Professors, student leaders and staff for giving us this wonderful opportunity and supporting us always.

生物資源科学専攻 博士前期1年

鈴木 春香

私は今回日中韓フォーラムに初めて参加しました。また自分の学会デビューがこのフォーラムだったため、最初はかなり不安でした。しかし、練習会が2回もあり、それぞれの練習会で先生が二人はいてくださり、細かいところまでアドバイスをいただけたので、本番前にながちりと準備できたことがよかったです。

フォーラム運営では受付係りを担当しました。トラブルもあり慌てる場面もありましたが、リーダーさん達がしっかり対応してくださったので安心して仕事ことができました。自分がお手伝いできたことはささいなことでしたが、少しでも力になれてよかったです。

残念だったことは、excursionに参加する、中国、韓国の学生が数人だったということです。それぞれの考えがあるとは思いますが、こちらのexcursionの係りの人たちは、このためにたくさんの時間を割いたと思うと、少し残念に感じました。もし、自分が逆の立場になる機会があるときは、このときの思いを忘れないようにしたいと思います。



地球進化科学専攻 博士後期1年

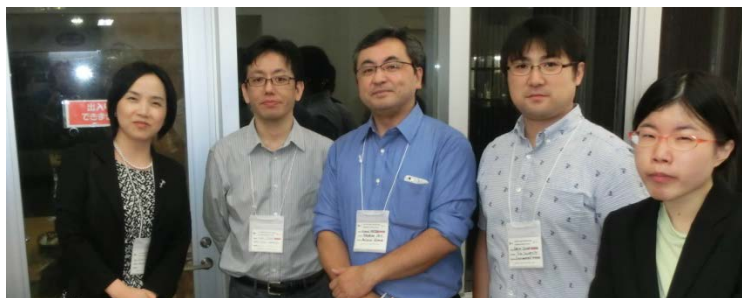
高橋 唯

学会には多くの人が集まります。それぞれが異なる独自の研究を発表し、それに対してディスカッションを行います。自分とは異なる視点・異なる考え・異なるアイデアが飛び交い、目まぐるしくも非常に刺激的な場になります。今回のフォーラムでは日本からだけでなく、中国や韓国の学生も来筑し多種多様な発表がなされ、それに劣らないような多くの意見が交換されたと思えました。知識を共有しその輪を大きく広げられた点で、僕にとっては非常に意義深いイベントになりました。今回のフォーラムでは筑波大学がホストでした。そのため、普段は演者として赴く学会も、今回に限ってはそうではありません。なぜならば、ほとんど全てを学生が準備するからです。どのように国外の学生に来てもらい、どこに宿を取ってもらうか。発表ではどの教室を使い、どの機材でセッティングするか。学会中のご飯などはどうするか、など考えなければならないことは多岐にわたります。そんな慌しさの中で準備したプレゼンテーションなのでやや心残りではありますが、いい経験をさせてもらえたと思えます。

地球科学専攻 博士前期2年

立住 祐一

初めての国際学会発表で緊張しましたが、無事に発表を終えることが出来たのでよかったですと思います。日中韓フォーラムを通して最も感じた事は英語によるプレゼンテーションの難しさでした。英語のスライドを作る際の文章表現において、どのような文章表現を用いれば伝わりやすいか、一つの文章を書くだけでもかなりの時間を要しました。また私は今まで聞き取りやすいアクセントに気を配った事が無かった為、原稿を作った際に、一つ一つの単語のアクセントや息継ぎの場所などについても考え、その通りに読める様に、繰り返し練習を行いました。その際に多くの方々に文章を見てもらったり、練習に立ち会ってもらったりした事で、最初の発表よりもかなり改善する事ができ、本番の発表に臨む事が出来ました。その方々の協力に本当に感謝しています。今後も英語を使ったプレゼンテーションをする機会は大いにあると思います。今回の経験を活かして、これからも英語による発表技術を磨いていきたいと思えました。



生物科学専攻 博士前期2年

戸祭 森彦

今回の日中韓大学院生フォーラムでは、**Second Prize** という有意義な結果を残すことができました。これは練習会で先生方からいただいたアドバイスがとても参考になったからだと思います。今回のような、フォーラム前に参加者が集まって練習会を行うという形での発表練習は初めてであった。英語の発表に慣れていない学生に練習の機会を与え、少しでも技術向上に寄与できるようにとの計らいであったと思うが、実に素晴らしい機会であった。普段会わない研究室の人たちの発表は刺激となり、自分のスライドや発表態度を見直すいいきっかけとなった。さらに、自分の母語ではない英語の言い回しや速さ、イントネーションなど、先輩方の発表を聞くことで参考にすることができた。

また、今回のフォーラムで全国各地の院生と話す機会を得た。研究内容について議論するだけでなく、同じ研究者を目指す仲間として励ましあうことができた。普段自分の研究室以外の大学院生とあまりつながりがないので、このような機会は非常に貴重であると思う。

また次回開催される際には、是非参加して経験を積み、新しいつながりをつくっていききたい。

地球科学専攻地球進化科学領域 博士前期1年

富永 紘平

2015年9月16日から18日にかけて、筑波大学で日中韓大学院生フォーラム2015が行われた。このフォーラムでは日本、中国、韓国の3か国から100人を超える学生が参加し、農学、生命科学、環境科学、地球科学分野の研究発表および意見交換を行った。今回は筑波大での主催であったため、筑波大生である私も大会運営に参加した。私は、中国・韓国の学生を空港やホテル間の送迎時に案内する仕事を務めた。バス係の仕事では、中国・韓国から到着した学生を最初に出迎え、最後まで送り届けるため海外からの学生との距離が近かった。海外の学生と話す機会も多く、英語でのコミュニケーションへの抵抗をなくすことができた。私は、何度か海外に行く機会があり出迎えてもらうことは何度かあったが、今回は逆に海外の人を迎える立場になったため、自分が海外に行くのとは異なった視点でフォーラムを見ることができ、新しく気づくことがあった。研究発表では、今回で3回目の英語による研究発表会となったので、初めて原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができ英語による研究発表の技術の向上につながった。

地球進化科学専攻 博士後期1年

主森 亘

今回の日中韓フォーラムでの発表は言語が英語ということもあり非常に勉強になった。特に、今後の国際学会への参加意欲が強くなり、行わなければならない準備や課題を理解することができた。次回参加の機会があれば賞を獲得できるよう努めたい。また、同じ世代の学生と交流を持てたことは何よりの収穫である。

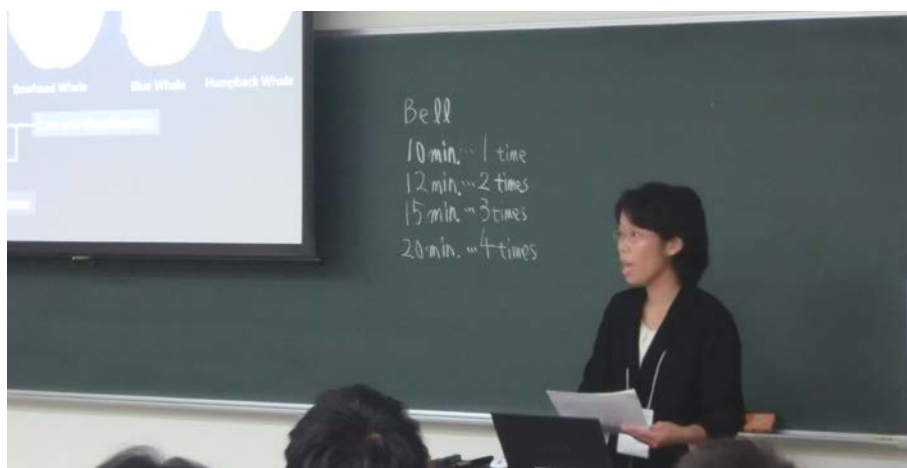
運営に関しては、自分も含めホスト国として十分な働きができたとは思えない。フォーラム自体は大きな事件もなく終わることができたと思うが、無事にフォーラムを終えることは最低限の仕事であり、必須事項である。準備・当日の動きなど、今回の反省点は非常に多いがそれぞれを一つ一つ丁寧に挙げ、教訓として次の代に残し、同じ轍を踏まないように具体的な対応策を考えることが必要であると強く感じる。

地球科学専攻 博士前期1年

梅里 恵

今年度日本で開催された日中韓フォーラムには発表者として出席であったが、英語でのプレゼンテーションは初ということもあり、自分にとって大きなステップアップとなった。今回のフォーラムで残念であったことは、Geosciences 分野は地質学関連が多く古生物関係者が非常に少なかったことである。全体として Geosciences 分野は発表者が少なく、さらに古生物関係の発表者はほぼ筑波大学に集中していたため同分野における幅広い交流とはならなかった。しかしながら、その他様々な形で交流する機会があり、分野内に限らない様々な交流は非常に得るものが多かった。

今後は Geosciences 分野がより活発になり、特に古生物分野での発表が増えていくことを願うばかりである。



国際地縁技術開発科学専攻 博士後期2年

Mingyu Wu

First of all, thank all the staffs` work. Because of you guy`s good organization and preparation, I got a good memory through The Japan-China-Korea graduate forum. Especially, there was a practice before the official presentation. A very nice expert shared a mount of comments to improve my Power Point file and tips to make a good presentation, as the English is not the first language for the reporter. Thank you very much.

Another, the organizers are kind. For me, it was nice experience in a funny game, which was held on the welcome party.

Thank you!

生物資源科学専攻（バイオシステムコース） 博士前期1年

Nan Zhang

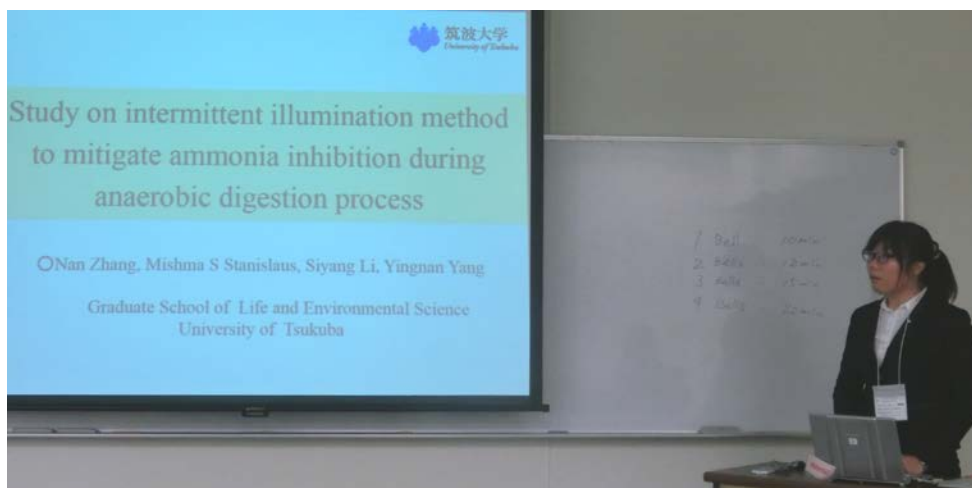
今回の日中韓大学院生フォーラムに参加いただいて貴重な経験になりました。

発表の練習を通じて、PPTの作り方及び発表の仕方についてより深く理解できました。

また、フォーラムの運営にも全員参加し、いろいろ体験できました。ちょっと忙しかつたけど、たくさん友達を作り出して、楽しかったです。いろいろな国からの人たちに交流できて、新しい絆も作りました。大切な経験だと考えられています。

さらに、バス送迎グループに参加されました。最初から何をすればよいのかよく知らなかったけど、グループリーダーとグループメンバーの皆さんのおかげで、順調に任務完了できました。皆さんのまじめさと強い責任感に感動されました。

今回のフォーラムを通じて、普段体験できない実験と勉強以外のことをたくさん体験して、貴重な経験になりました。



生命産業科学専攻 博士後期 1年

Qi Zhu

During September 16th-18th, 8th JCK forum was held at University of Tsukuba. This is meaningful for me, because this forum was not only a chance for me to show my study to everyone, but also a chance for me to practice my organization and communication skills as a host of university.

When I was first told to be an organizer of the forum, I panicked. I have never hosted any activity before. I have to pick the professors and students up; most of them come from Korea. I thought it was hard until I started to do it. Although my Japanese was not good, communication was going on well.

In that week, every student from University of Tsukuba did their best. I should say thanks to おかざわさん and Zhou さん, they helped me a lot during the forum. And also thanks to the professors during the presentation when I was hosting it, they made it went on smoothly.

As a part of this forum, I have learned a lot. And I hope I can have more chance to get more experience in the next JCK forum.



生物資源学類 4年

島田 紘明

There was many 'first time' in JCK forum 2015. For example, those were my first presentation in English and my first presentation to person who don't know many things of soils (my major) and my first chance of attending sessions as chairman and my first trip to AIST. I have learned so many things from everything.

It was very hard work for me to make a presentation in English. It takes many times more than I assumed. So the practice presentation was very helpful for me. I thank the organizer team and teachers for that very much. It was very difficult for me to explain my studies because of lack of my English skills. But thanks to good presentation (especially figures and table of slides), I could ask some questions as a chairperson! It was my small success in this forum. And I recommend that trip to AIST where has many contents that make you amused.

I appreciate the organizer team and people who attending this wonderful forum.





3) サポートチームからの報告 / Report by Support Team

生命環境エリア支援室 中国連携サポートチーム
築 美浦子、高橋 未来、大坪 龍介

私たち中国連携サポートチームは、生命環境系における中国連携事業を支援しています。支援活動の一つとして、毎年開催される日中韓大学院生フォーラムに携わっています。

第8回目となる今回、筑波大学はホスト校として日本・中国・韓国などの大学から学生や教員を迎え入れました。参加者総数は173名（中国59名、韓国42名、日本68名、その他4名）でした。

1 目的

本フォーラムは、学生が主体となって研究発表や大学間交流等を行う国際イベントです。今回、ホスト校として参加者を迎えるため、本学学生には高い負荷が掛かります。私たちチームは、活動目的を下記の2つに設定し、事務処理を中心に細かな点をサポートすることを意識しました。

- ・学生の負荷を軽減してプレゼンテーションと学生交流に少しでも注力してもらうこと
- ・準備を万全にして参加者を滞りなく迎え入れること

2 活動と所感

今回、チームメンバーで下記の役割を設定してサポートを行いました。

2.1 ハンドブック・アブストラクト集印刷手配、写真撮影サポート（築 美浦子）

学生委員の方々が作成するハンドブック・アブストラクト集原稿の確認、及び印刷に協力いただいた総合事務センターとの連絡調整等を担当しました。参加者全員の要旨の取りまとめ、各種タイムスケジュールや会場の策定等、学生委員の皆さんの作業量が多くなる場所なので、細かく連絡を取りながら、なるべく負荷を減らせるよう意識しました。

写真撮影は筑波大学参加者・WEB担当・サポートチームで協力して行いました。プレゼンテーションをする皆さんの真剣な姿や、様々な国の学生さんが互いに笑いあい、議論する、活気あふれるフォーラムの雰囲気がぜひ伝わればと思います。

2.2 会計関連、ホテル・バスの手配（高橋 未来）

予算の管理、支払処理、ホテルと借り上げバスの手配を主に担当しました。今回、限られた予算内に収めるため、サポートメンバーで打合せを重ね、価格や信頼の点で適切な業者を探したり、収支簿を逐一確認したりしながら、予算の使い道を決定

していきました。

また、これまで経験の無かった会計手続きを行うため、大学規則や会計マニュアルを確認しつつ、使い方に問題はないか上司等にも相談しながら支払処理を進めました。

2.3 会場、物品、食事の準備（大坪 龍介）

研究発表や会議等の会場や物品を、生命環境エリア支援室の教務・会計の協力を得ながら手配しました。また、参加者に提供する食事やウェルカムパーティー・フェアウェルパーティーの準備にあたり、学内食堂との調整を行いました。参加者に混乱なく食事を提供し、パーティーを楽しんでもらえるよう、学生委員や食堂スタッフと相談しながら準備を進めました。パーティーが盛り上がり、学生同士で交流を深める姿を見ることができて本当に良かったです。

3 おわりに

今年は、筑波大学がホスト校となる年で、大勢の参加者が筑波大学に集まりました。

企画から実施に至るまで、やるべきことが山積していましたが、参加者を滞りなく迎え入れ、無事にフォーラムを開催することができました。これは、学生委員の方々をはじめ、参加した学生の皆様の努力や、関係者のご協力やアドバイスの賜物です。また、プレゼンテーションでは英語での熱のこもった研究発表と質疑応答を行う学生の姿を見ることができました。

フォーラムの企画・実施のサポートという貴重な経験を、サポートチームのメンバーそれぞれが、今後の糧として仕事に活かしていきます。このような成長の機会を与えて頂き、ありがとうございました。今後も、この日中韓大学院生フォーラムが継続していくよう、大学職員としてサポートしていきたいと思えます。

最後になりますが、今回指揮を執った学生委員の方々や、研究発表をした学生の皆様のこれからのご活躍をお祈り申し上げます。

以上



WEB マネジメント 国際連携 実行委員会
コーディネーター 副代表



2015 年度中国連携サポートチーム

4) WEB 関連の報告 / Report of WEB Site Management

生命環境エリア支援室

櫻井 進

支援室サポートチーム Web 担当として、ホームページの開設等のサポートを行いました。フォーラム開催情報の案内、各様式、アブストラクト集、ハンドブックなど資料のダウンロード、結果の発表などをインターネット経由で行いました。

また、参加登録に Web を使ったオンライン・レジストレーションとすることで、参加者情報の自動集計を行い、事務局と各国の参加者との個別連絡やビザ手配、宿泊の準備などのやり取りがスムーズに行えたと思います。

ホームページのためのサーバスペースは、学情センターのレンタルサーバーを使用できた（研究科 HP 内に設置）こと、オンライン・レジストレーション及び、事務局連絡用のメールアドレスは、Google フォーム、Google の G Mail の無料サービス利用できたので Web 関連に特別な費用をかけずに開設ができました。

ホームページ情報

- ・ 公式ホームページ（英語） <http://www.life.tsukuba.ac.jp/~jck2015/>
 - オンライン・レジストレーション
 - プログラム、アブストラクト集、ハンドブック等のダウンロード
 - 受賞者の情報など結果報告
- ・ 日本語版ページ <http://www.life.tsukuba.ac.jp/event/japan-china-korea-forum.html>
 - 生命環境科学研究科 HP 内から公開
 - 学内参加者への参加案内
 - 筑波大学受賞者の情報、その他フォーラムに関するサポート情報

問題点としては、

- ・ 中国からは Google サイトにアクセスできないため、中国からのオンライン・レジストレーションができなかった。中国事務局にお願いして別途手作業で集計を行った。
- ・ 今後同様にオンライン・レジストレーションを行う場合は、その点を考慮する必要がある。
※公式HPに関しては学情センターのサーバーを利用しているので各国からのアクセスに問題はなかったため、そのほかのサービスに支障はなかった。

以上

The 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum

公式ホームページ（英語）と研究科 HP 内の案内ページ（日本語情報）

The 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum 2015
@ Univ. of Tsukuba Sep. 16th ~ 18th, 2015

News

- Announcement of the Presentation Prize Winners at the 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum. Out of the 129 presentations at the forum, 30 presentations were selected as the best presentations of the Forum. Prize winners.
- The 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum will be held in September 2015 at University of Tsukuba, Japan. Group Photo.
- Released a Handbook of the Forum as of Sep 11th. Download (Login Required).
- Updated Abstract Book as of Sep 10th. Download (Login Required).
- Presentation Schedule. Download.

Date
Sep 16th to 18th, 2015

Venue
University of Tsukuba
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan

<http://www.life.tsukuba.ac.jp/~jck2015/>

第8回 日中韓大学院生フォーラム

第8回日中韓大学院生フォーラム
日程：平成27年9月16日（水）～18日（土）
会場：筑波大学
セッション：Biological Sciences, Agricultural Sciences, Environmental Sciences and Geosciences
対象：基本的には大学院生を対象にしていますが、研究発表できる場合は学部生の方でも歓迎します
参加言語：英語
発表形式：口頭発表

1st Prize受賞者のみなさん (クリックで拡大できます)

2nd Prize受賞者のみなさん

3rd Prize受賞者のみなさん

<http://www.life.tsukuba.ac.jp/event/japan-china-korea-forum.html>

Web によるレジストレーションフォームと自動集計された参加者情報

Japan-China-Korea Graduate Student Forum 2015
Registration Form for Japan-China-Korea Graduate Student Forum 2015

Family Name *

Middle Name Initial(s)

Given Name *

Email address *

Title *

Student
 Post-doc
 Professor

Institution Name *

Country of Institution *

China
 Korea
 Japan
 その他



Screenshot of a Google Spreadsheet titled "jck2015 form answer" showing a list of registered participants with columns for Family Name, Middle Name, Given Name, Email address, Title, Institution Name, Country, and Nationality/Visa.

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
タイムスタンプ	Family Name	Middle Name	Given Name	Email address	Title	Institution Name	Country	Nationality	Visa	
4	2015/07/02 12:24:34	Stanislaus	Silvia	Mishma	silvia.mishma@yahoo.com	Student	University of Tsukuba	Japan	Indian	No
5	2015/07/02 12:49:29	Machida		Shuntaro	s1430345@u.tsukuba.ac.jp	Student	Tsukuba	Japan	Japanese	No
6	2015/07/02 13:06:36	ZHU		Qi	zqzxcv@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	China	No
7	2015/07/02 13:17:37	ASADA		RYO	ryo.spring@gmail.com	Student	Tsukuba University	Japan	Japan	Yes
8	2015/07/02 15:13:07	Hu		Xiaohong	huhx.hi2013@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	China	No
9	2015/07/02 15:58:41	Hasebe		Aki	s1421106@u.tsukuba.ac.jp	Student	Graduate school of Life an	Japan	China	No
10	2015/07/02 16:48:54	Zhang		Nan	nan520611@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	China	Yes
11	2015/07/02 17:38:06	Li		Siyang	lisyang927@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	China	No
12	2015/07/03 1:20:59	JIANG		GANDAN	jiangandan@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	China	No
13	2015/07/03 10:59:25	Inaba		Yu	s1530212@u.tsukuba.ac.jp	Student	Tsukuba university	Japan	China	No
14	2015/07/03 13:00:17	Funatsu		Shiori	s1430344@u.tsukuba.ac.jp	Student	Tsukuba	Japan	Japanese	No
15	2015/07/03 14:45:09	Kozu		Shohei	kozuh_0419@geol.tsukuba.ac.jp	Student	University of Tsukuba	Gr	Japan	No
16	2015/07/05 21:43:45	Suzuki		Hanika	s1521051@u.tsukuba.ac.jp	Student	Tsukuba university	Japan	Japan	No
17	2015/07/06 10:36:47	Zhou		Sigj	zhoujig96@gmail.com	Student	Tsukuba university	Japan	China	Yes
18	2015/07/06 11:07:55	Okazawa		Risa	monopmed1814@yahoo.co.jp	Student	Tsukuba university	Japan	China	No
19	2015/07/06 17:41:04	MARUYAMA		YUKI	yuki_rmr_0506@yahoo.co.jp	Student	Univ. Tsukuba	Japan	Japanese	No
20	2015/07/08 0:07:11	MOALLA		Rached	rached_moalla@hotmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	Tunisian	No
21	2015/07/13 21:00:25	Umesato		Megumi	elrathia.cambran.0617@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	Japan	No
22	2015/07/14 10:43:46	Sensui		Megumi	meg_sens@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	Japan	No
23	2015/07/14 16:22:58	Muhammad		Arif	s1413064@u.tsukuba.ac.jp	Student	University of Tsukuba	Japan	Indonesia	Yes
24	2015/07/14 17:14:52	Hasebe		Aki	s1421106@u.tsukuba.ac.jp	Student	Graduate school of Life an	Japan	Japanese	No
25	2015/07/14 17:29:48	Sato		Ayaka	satoh_ayk@gmail.com	Student	University of Tsukuba	Japan	Japanese	No
26	2015/07/15 10:29:06	TONOMORI		Wataru	twon081@gmail.com	Student	University of School of Life an	Japan	Japan	No

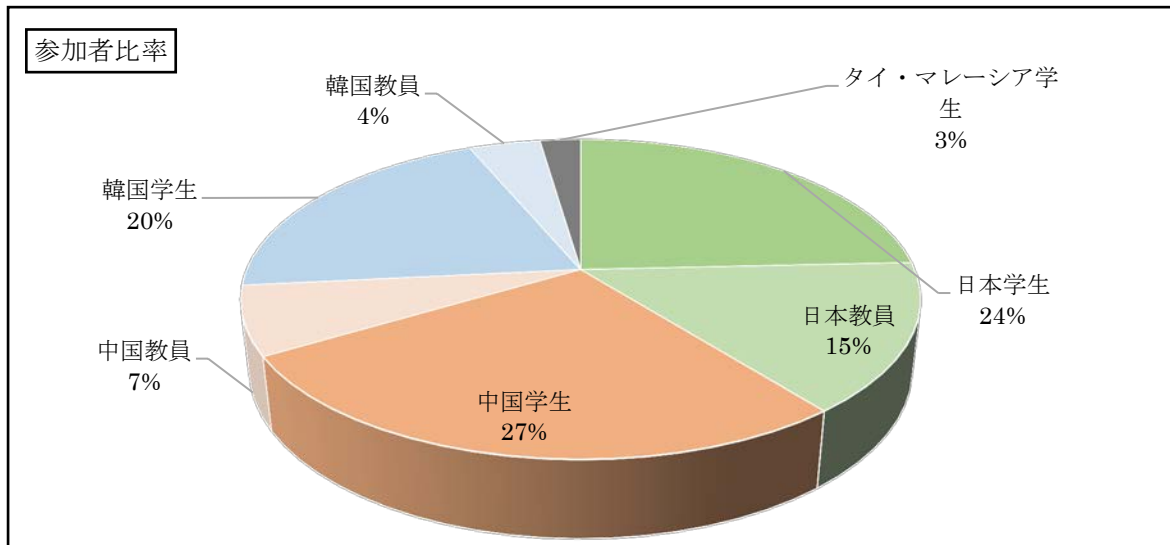
各参加者から入力された登録情報をもとに、事務局からの個別連絡、入国手続き、宿泊の準備などを行った。

5. フォーラム参加校と参加者数

/ List of Participated Universities and the Number of Participants

国	大学	人数		
		学生	教員	計
日本	筑波大学	37	22	59
	九州大学	2	1	3
	神戸大学	2	1	3
	徳島大学	1	1	2
	東洋大学	0	1	1
	小計	42	26	68
中国	中国地質大学 (China University of Geosciences)	21	6	27
	北京大学 (Peking University)	8	2	10
	中国科学院 (Chinese Academy of Sciences)	5	1	6
	清華大学 (Tsinghua University)	7	2 (注1)	9
	浙江清華長三角研究院 (Yangtze Delta Region Institute of Tsinghua University)	3	1	4
	中南民族大学 (South-Central University for Nationalities)	3	0	3
	小計	47	12	59
韓国	忠南大学校 (Chungnam National University)	13	3	16
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	14	2	16
	江原大学校 (Kangwon National University)	8	2	10
	小計	35	7	42
タイ	モンクット王トンプリー工科大学 (King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2	0	2
マレーシア	マレーシア工科大学 (Universiti Teknologi Malaysia)	2	0	2
	小計	4	0	4
	合計	128	45	173

(注1: 研究員1名含む)



6. 受賞者一覧 / List of Prize Winners

賞	氏名	大学
1st	Gandan Jiang	筑波大学
	YouKyoung Lee	忠南大学校
	Rached Moalla	筑波大学
	Hyo Suk Gwon	慶尚大学校
	市瀬 裕樹	徳島大学
	Qi Zhu	筑波大学
	Mishma Silvia Stanislaus	筑波大学
	Qiao Hao	清華大学
	Shuling Tang	中国地質大学
Yile Tao	北京大学	
2nd	Arif Muhammad	筑波大学
	Saiwaree Ngoenphoemsup	モンクット王トンブリー工科大学
	戸祭 森彦	筑波大学
	Siqi Zhou	筑波大学
	Wei Liu	清華大学
	Ting Lu	北京大学
	Haoen Wu	北京大学
	Yuvaneswaran Krishnan	マレーシア工科大学
	平本 潤	筑波大学
Jing Ma	中国地質大学	
3rd	Nan Zhang	筑波大学
	宮崎 航	筑波大学
	Hye Min Kim	慶尚大学校
	鈴木 春香	筑波大学
	Daorui Han	中国科学院
	Jeongmin Kim	慶尚大学校
	Grecia Olvera Palma	清華大学
	Yawei Xie	清華大学
	Dan Zhao	中国地質大学
Moyuan Yang	中国科学院	



1st prize 受賞者



2nd prize 受賞者



3rd prize 受賞者

7. 筑波大学参加者名簿

/ List of Participants from University of Tsukuba

生命環境科学研究科

氏名	所属	学年 (フォーラム時)	
浅田 遼	Ryo Asada	環境バイオマス共生学専攻	D1
藤原 直倫	Naomichi Fujihara	環境バイオマス共生学専攻	M1
福永 健太郎	Kentaro Fukunaga	生物資源科学専攻	M1
船津 詩織	Shiori Funatsu	環境バイオマス共生学専攻	M2
羽尾 周平	Shuhei Hao	生物圏資源科学専攻	D2
平本 潤	Jun Hiramoto	地球科学専攻	M2
呼 小红	Xiaohong Hu	生命産業科学専攻	D2
稲葉 遊	Yu Inaba	環境バイオマス共生学専攻	M1
高津 翔平	Shohei Koze	地球進化学専攻	D2
李 思揚	Siyang Li	生物資源科学専攻	M2
町田 峻太郎	Shuntaro Machida	環境バイオマス共生学専攻	M2
丸山 優樹	Yuki Maruyama	生物資源科学専攻	M1
宮崎 航	Wataru Miyazaki	生物資源科学専攻	M2
Rached Moalla		生物圏資源科学専攻	D1
長塚 元規	Motoki Nagatsuka	地球科学専攻	M1
小田 真希	Maki Oda	生物資源科学専攻	M1
岡澤 梨沙	Risa Okazawa	生物科学専攻	M2
佐藤 文香	Ayaka Sato	生物資源科学専攻	M2
島田 佑允	Yusuke Shimada	環境科学専攻	M1
Mishma Silvia Stanislaus		生命産業科学専攻	D1
鈴木 春香	Haruka Suzuki	生物資源科学専攻	M1
高橋 唯	Yui Takahashi	地球進化科学専攻	D1
立住 祐一	Yuichi Tatezumi	地球科学専攻	M2
戸祭 森彦	Morihiko Tomatsuri	生物科学専攻	M2
富永 紘平	Kohei Tominaga	地球科学専攻地球進化科学領域	M1
主森 亘	Wataru Tonomori	地球進化科学専攻	D1
梅里 恵	Megumi Umesato	地球科学専攻	M1
Mingyu Wu		国際地縁技術開発科学専攻	D2
張 楠	Nan Zhang	生物資源科学専攻(バイオシステムコース)	M1

生命環境科学研究科

氏名		所属	学年 (フォーラム時)
周 思奇	Siqi Zhou	生物科学専攻	M2
祝 祺	Qi Zhu	生命産業科学専攻	D1

生命環境学群

氏名		所属	学年 (フォーラム時)
Gandan Jiang		生物資源学類	B4
Arif Muhammad		生物資源学類	B4
岡島 智美	Tomomi Okajima	生物学類	B4
泉水 めぐみ	Megumi Sensui	生物資源学類	B4
島田 紘明	Hiroaki Shimada	生物資源学類	B4
武井 瞳	Hitomi Takei	生物資源学類	B4

大学院生 31名

学群生 6名



筑波大学フォーラム参加者

8. 実行委員名簿 / List of Organizing Committee Members

日本実行委員	氏名	所属・役職/学年(フォーラム時)
名誉顧問	白岩 善博	生物科学専攻・教授
代表	江面 浩	生物圏資源科学専攻・教授・生命環境科学研究科長
副代表	鳥羽 岳太	生命環境系 URA
教員委員	DeMar Taylor	生物圏資源科学専攻・教授
	康 承源	生物圏資源科学専攻・准教授
	楊 英男	生命産業科学専攻・准教授
	Tofael Ahamed	国際地縁技術開発科学専攻・准教授
	Thomas Parkner	地球環境科学専攻・助教
	Louis Irving	環境バイオマス共生学専攻・助教
	木下 奈都子	生物圏資源科学専攻・助教
	Matthew Wood	生物科学専攻・助教
大学院生委員	羽尾 周平	生物圏資源科学専攻・D2
	平本 潤	地球科学専攻・M2
	藤原 直倫	環境バイオマス共生学専攻・M1
学類生委員	岡島 智美	生物学類・B4
	市川 紗矢香	生物資源学類・B4
	浅野 裕樹	地球学類・B4
事務	大坪 龍介	生命環境エリア支援室
	築 美浦子	生命環境エリア支援室
	高橋 未来	生命環境エリア支援室
	正岡 裕子	生命環境エリア支援室
	櫻井 進	生命環境エリア支援室
	渋谷 眞樹	生命環境エリア支援室
中国実行委員	氏名	所属
教員委員	Chuanping Feng	中国地質大学 / China University of Geosciences
	Yu Feng	中国地質大学 / China University of Geosciences
学生委員	Chen Wu	中国地質大学 / China University of Geosciences
	Peijing Kuang	中国地質大学 / China University of Geosciences
韓国実行委員	氏名	所属
教員委員	Sunghoon Jung	忠南大学校 / Chungnam National University
	WangHee Lee	忠南大学校 / Chungnam National University
学生委員	Sumin Oh	忠南大学校 / Chungnam National University
	Do-Gyun Kim	忠南大学校 / Chungnam National University

9. 謝辞 / Acknowledgement

この報告書からもわかるように、本フォーラムは多くの方の多大なご支援により成立させることができました。簡単ではありますがここに感謝の意を示します。

本フォーラムの代表である江面浩研究科長及び、名誉顧問である白岩善博教授にはフォーラム企画、運営に関する多くのご助言を頂きました。また、フォーラム実行委員の DeMar Taylor 教授、楊英男准教授、康承源准教授、Tofael Ahamed 准教授、Thomas Parkner 助教、Louis Irving 助教、Matthew Wood 助教、木下奈津子助教には参加学生の練習会に講師として参加して頂き、発表に関する多くのご助言を頂きました。心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、基調講演を快く受け入れてくださりました、白岩善博教授、浅沼順教授にお礼申し上げます。また、審査に協力して頂いた先生方及び、本フォーラムを運営するにあたり協力して頂いた当日スタッフの学生の皆様に感謝申し上げます。さらに、生命環境系 URA の鳥羽岳太様及び、大坪龍介様をはじめとするエリア支援室の皆様には、本フォーラムのサポートに尽力して頂きました。心より感謝申し上げます。最後に、同じ学生リーダーでともに運営に尽力した、平本さん、藤原さん、浅野さん、市川さん、岡島さんに心よりお礼申し上げます。

これまでの日中韓大学院生フォーラムの実績を礎に、今後の日中韓フォーラムがさらに発展を心より願っています。

リーダーグループ代表 羽尾周平

The 8th JCK forum was accomplished successfully thanks to much support from many professors and staffs. Here we would like to show great gratitude to them.

Prof. **Hiroshi Ezura**, the Chair of the Organizing Committee of the Forum, and Prof. **Yoshihiro Shiraiwa**, the Honorary Advisor of the Forum, advised us many things related to organizing and managing the forum. Prof. **DeMar Taylor**, Associate Prof. **Yang Yingnan**, Associate Prof. **Kang Seung Won**, Associate Prof. **Tofael Ahamed**, Assistant Prof. **Thomas Parkner**, Assistant Prof. **Louis Irving**, Assistant Prof. **Matthew Wood** and Assistant Prof. **Natsuko Kinoshita** attended presentation practices and gave us many advices to improve our presentation. Even though they were busy, Prof. **Jun Asanuma** and Prof. **Yoshihiro Shiraiwa** accepted keynote speech and performed great presentation. Many professors and students cooperated us as a reviewer and staff. Not only professors or students, Mr. **Gakuta Toba** and the Support Team including Mr. **Ryusuke Otsubo** helped us in many scenes. Finally, Student Leaders worked well for everything of the forum.

We hope that the JCK Forum will be expanded and continued for years.

Student Leader Group; Shuhei Hao



第 8 回日中韓大学院生フォーラム報告書
Report of the 8th Japan-China-Korea Graduate Student Forum
2016 年 3 月 発行

第 8 回日中韓大学院生フォーラム実行委員会